

研究主題

自分の考えをもち、意欲的に表現する児童の育成 ～児童同士の関わり合いを通して～

1 主題設定の理由

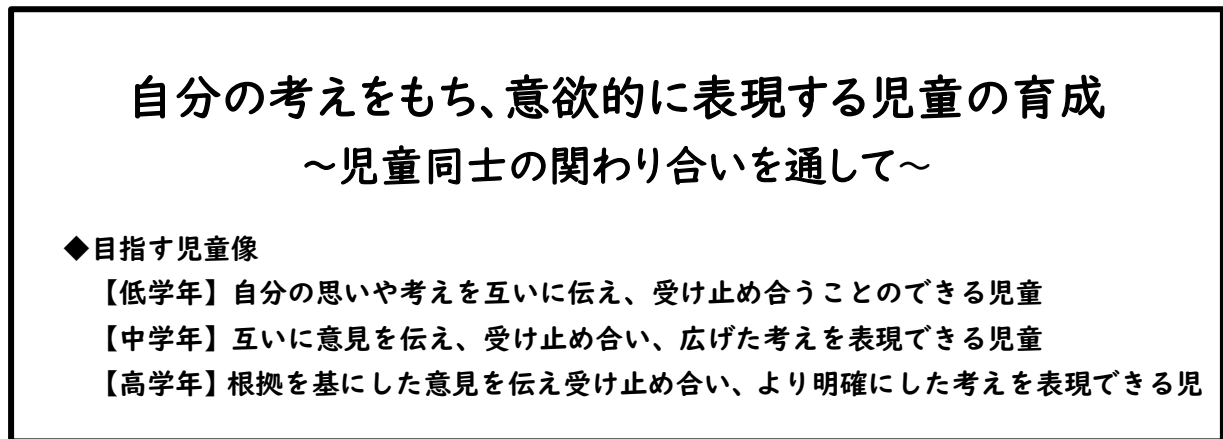
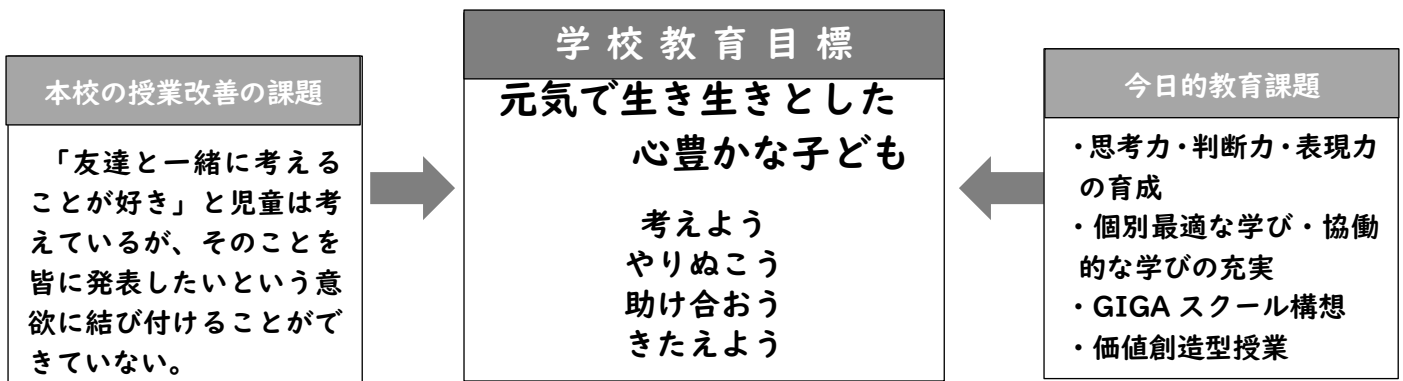
近年子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い従来の単なる知識の習得ではなく、思考力・表現力・判断力等の育成が求められている。本校児童は、学習問題に対しての考えをもつことはできているが、それを適切に文章に書き表したり、友達と伝え合ったりするなど、意欲的に表現することに苦手意識がある児童が一定数いることが課題である。また、コロナ禍を通して友達同士の交流が希薄になったことで、学び合う意識が低くなっていったと考えられる。

そこで、本校では児童自身が自分の考えをもち、それをより深い考えにするため児童同士で話し合ったり、見合ったりすることが意欲的に表現する力につながると考え、本研究主題を「自分の考えをもち、意欲的に表現する児童の育成 ～児童同士の関わり合いを通して～」に設定した。

2 研究の内容と経過

令和6年4月 1日	新年度計画作成 役割分担
4月24日	昨年度の研究成果と課題振り返り 今年度の研究の方向性確認
6月26日	分科会ごとに児童の実態・研究主題・授業者について確認
7月 8日	児童アンケート実施
7月17日	分科会ごとに指導案検討
11月15日	研究授業 5年3組 授業者 澤村 優花 教諭 教科・単元 国語科「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」 講師 中野区教育委員会指導室 指導主事 花井 大輔 先生
11月27日	研究授業 2年2組 授業者 大澤 駿祐 教諭 教科・単元 国語科「書いて伝えよう！お気に入りのおもちゃ」 教材名「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方を説明しよう」 講師 中野区教育委員会指導室 指導主事 花井 大輔 先生
12月17日	研究授業 3年3組 授業者 深井 直人 教諭 教科・単元 国語科「おすすめの一さつを決めよう」 講師 中野区教育委員会指導室 指導主事 花井 大輔 先生
令和7年1月17日	児童アンケート実施
3月12日	今年度の研究のまとめ 来年度の方向性確認

3 研究構想図



◆研究仮説

- 表現したいことを見付ける工夫 ○ 考えを深めるための工夫

これらの工夫を取り入れた授業を積み重ねることで、自分の考えを表現したいという意欲は高まる。

○ 表現したいことを見付ける工夫

- 【低】 身近な題材（おもちゃ作り）を設定する
認め合う活動（よいところ探し）を取り入れる
- 【中】 日常生活の中から話題を設定する
図書館を活用し、紹介したい本を選ぶ環境を整える
- 【高】 児童アンケートを活用し、児童がイメージしやすい身近な事柄をテーマに設定する

○ 考えを深めるための工夫

- 【低】 ICT（自身の活動を画像で保存し見返せるようにする）を活用する
友達に自分の考えを説明する活動を取り入れる
友達と文章を読み合い、よい表現を自分の文章に生かす
- 【中】 思考ツール（クラゲチャート）を活用して、考えを整理する活動を取り入れる
- 【高】 ICT（生成 AI）を活用して、必要な資料を収集する
ICT（「Google ドキュメント」「オクリンクプラス」）を活用して、自分の文章を推敲する
友達と文章を読み合い、よい表現を自分の文章に生かす

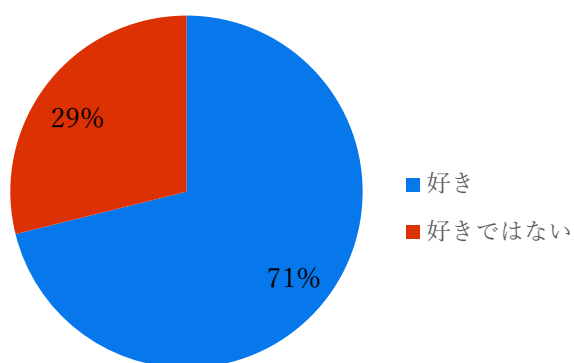
4 本校児童の実態

- ・ ICT の活用に慣れており、ICT スキルの吸収力が高い。その反面、紙媒体となると意欲の低下が見られる。
- ・ 低学年は発表することが好きな児童が多い。
- ・ 全体的に、失敗を恐れ、周囲の目を気にしている様子がうかがえる。
- ・ 語彙量が少なく、自分の考えをもち表現すること（話すこと・書くこと）を苦手とする児童が多い。

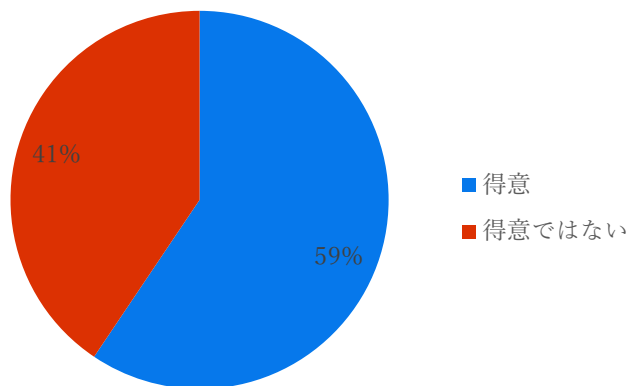
5 児童アンケートの結果及び考察

(1) 低学年

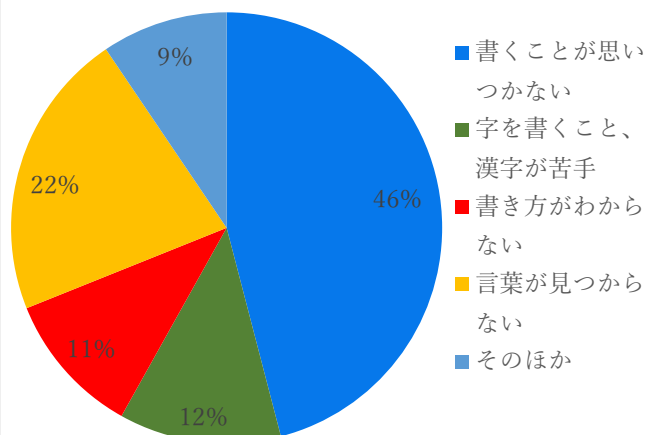
自分の考えを書くことは好きですか。



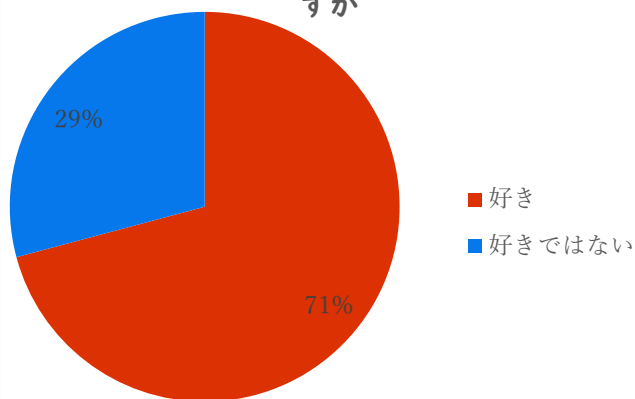
自分の考えを書くことは、得意ですか。



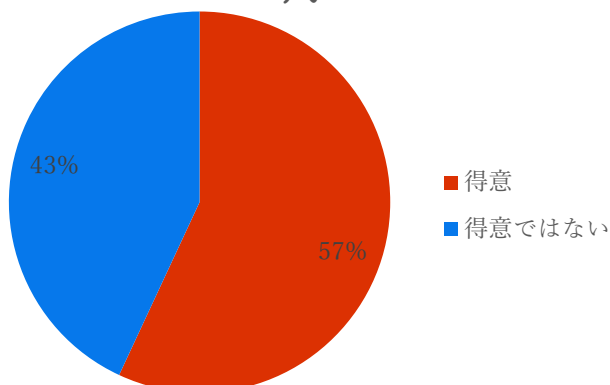
好きではない理由



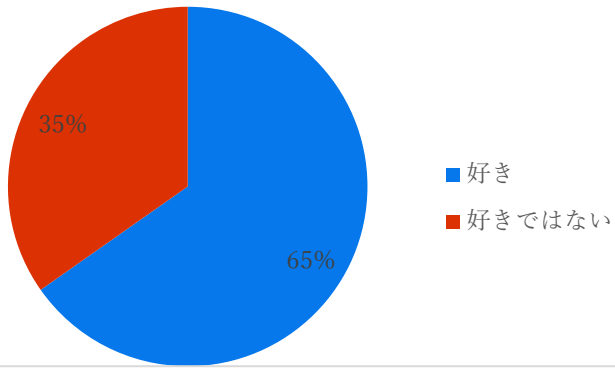
ペアで自分の考えを話すことは好きですか



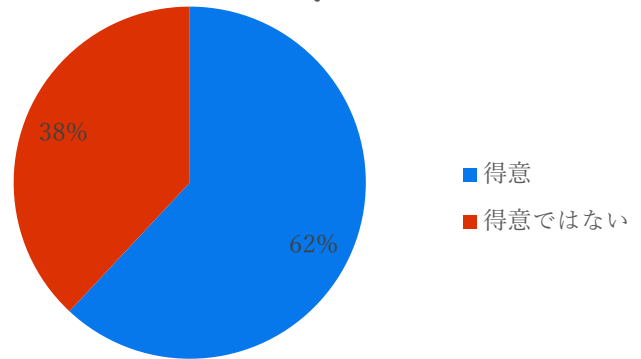
ペアで自分の考えを話すことは得意ですか



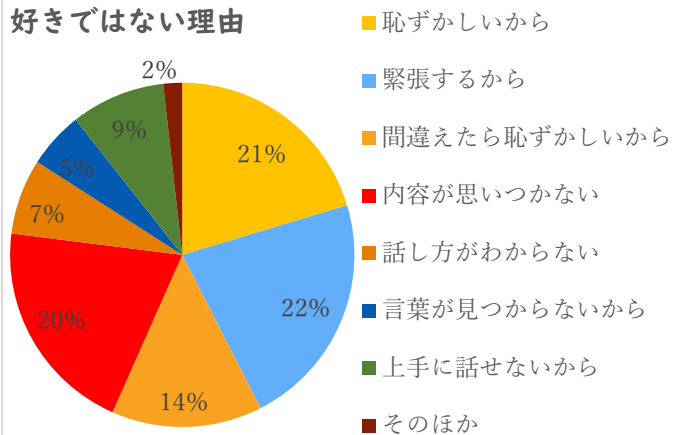
グループで自分の考えを話すことは好きですか



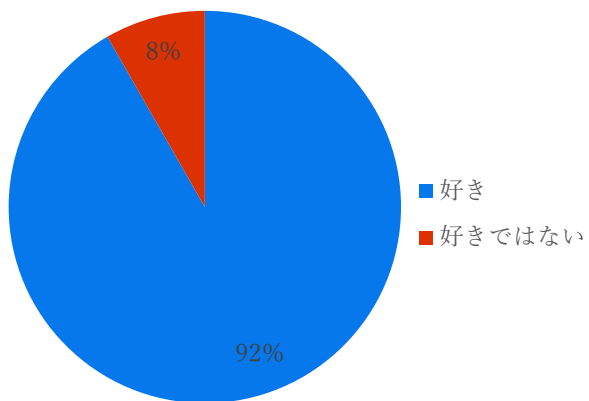
グループで考えを話すことは得意ですか



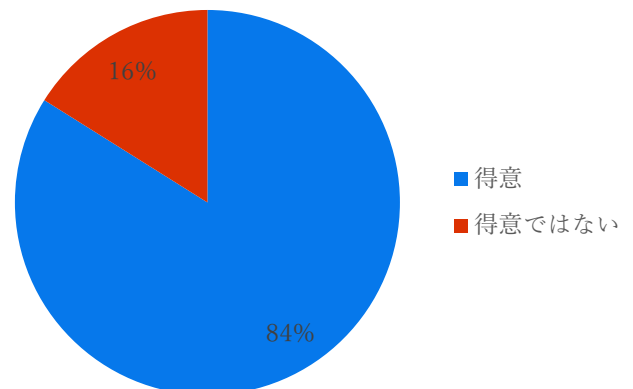
好きではない理由

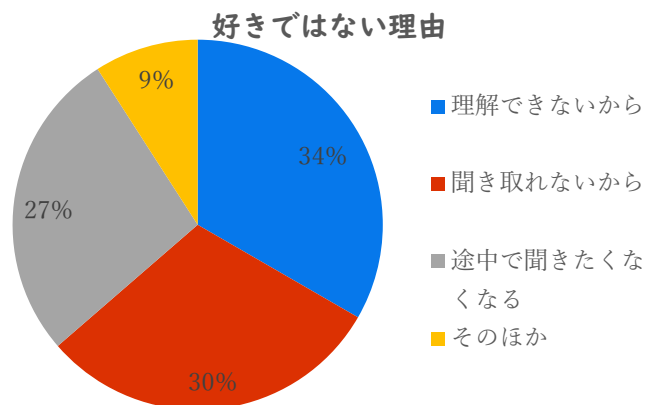


友達の話聞くのは好きですか



友達の話聞くのは得意ですか





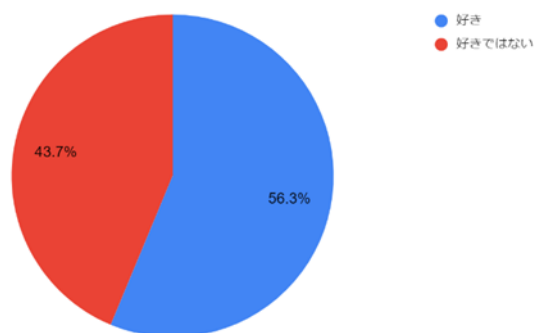
「書くこと」「話すこと」「聞くこと」全ての項目において、「好き」と回答した児童が多く見られた。しかし、「書くこと」「話すこと」が「得意」かどうかの項目においては、肯定的な意見が低下している。そこから、好きではあるが自信がない児童が一定数いることが考えられる。低学年段階においては、好きと感じている児童が自信をもって学習に取り組むような手だてを考える必要がある。

「書くこと」の苦手な理由として「書くことが思いつかない」が半数を占めた。それに対しては、テーマに合うキーワードを学級で考えたり、教師の例文を例示したりするなどして書き出しに躓かないようにする必要がある。

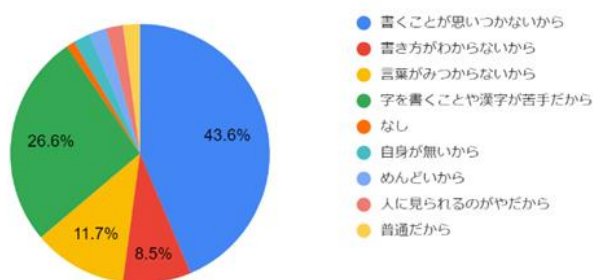
「話すこと」の苦手な理由として「恥ずかしい」「緊張する」「間違えたら恥ずかしい」の3項目で半数以上となった。児童が消極的にならないよう間違えを受け止められるような学級経営を日頃から行うことが必要であると考えられる。また、ペアやグループでの話し合いを増やすとともに、話型を示すことで児童が安心して考えを伝え合えるようにすることが重要なのではないかと考える。

中学年

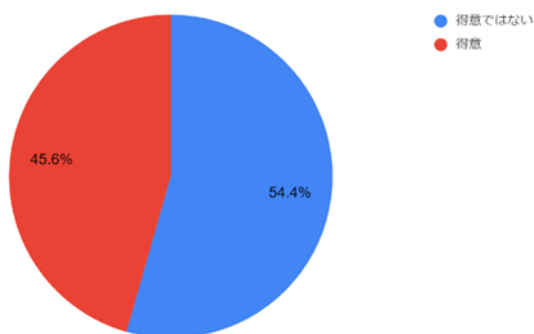
「自分の考えを書くことは好きですか。」



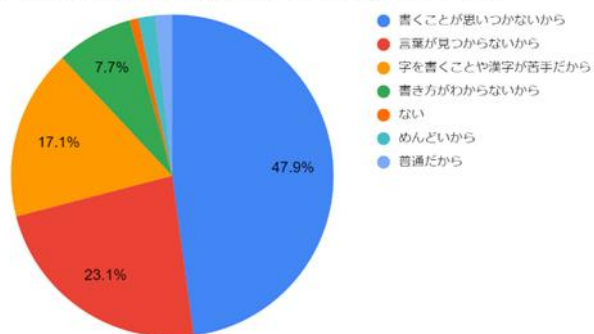
【好きではないを選んだ人】理由を教えてください。



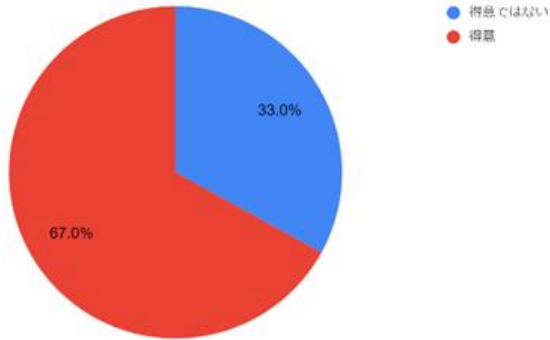
「自分の考えを書くことは得意ですか。」



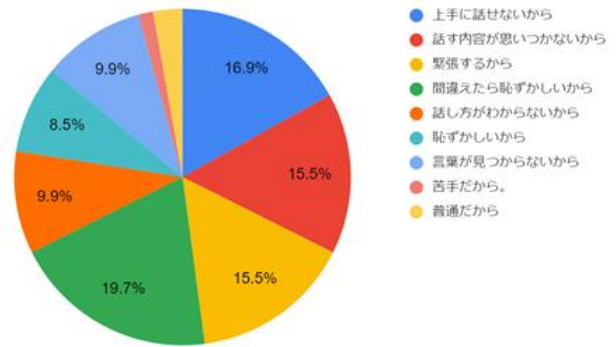
「【得意ではないを選んだ人】理由を教えてください」



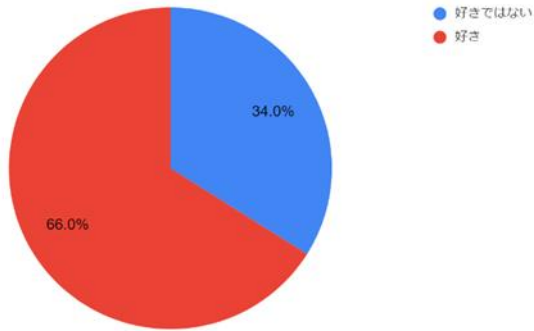
「ペアで自分の考えを話すことは得意ですか」



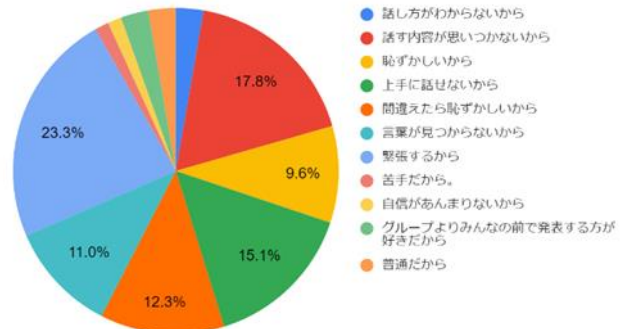
「【得意ではない人】理由を教えてください」



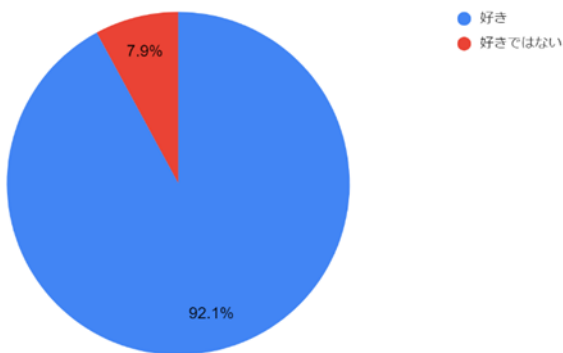
「グループで自分の考えを話すことは好きですか」



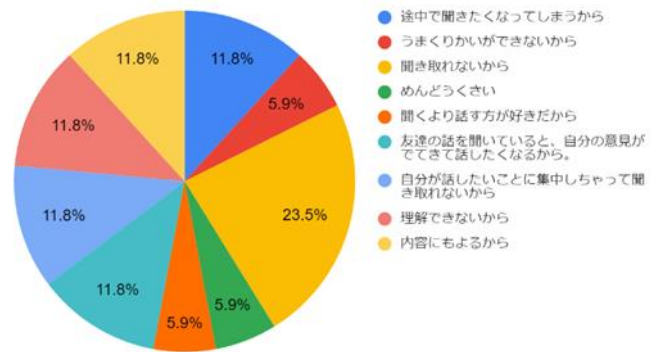
「【好きではない人】理由を教えてください」



「友だちの話を聞くことは好きですか」のカウント数



「【好きではない人】理由を教えてください」



「書くこと」「話すこと」「聞くこと」どの項目においても肯定的な意見が多い。

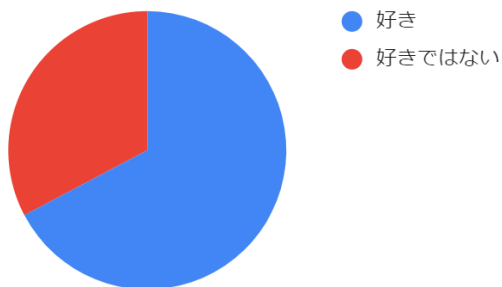
3つの項目の中で「書くこと」が得意ではないと答える児童が最も多い。

得意ではない理由として「書くことが思い付かないから」が半数を占め、次に「言葉が見つからないから」「漢字が苦手」などが多く挙げられた。実際に書く段階になると自分の考えを文字に起こせないことがある。また漢字にも苦手意識をもっていることから語彙の不足、表現方法の仕方について課題があると考えられる。

「話すこと」においては、ペアでもグループでも話すことが得意不得意の割合に変化はあまりない。不得意な理由として挙げられているのは「上手に話せない」「話す内容が思い付かない」が多かった。話すことに緊張してしまうことよりも、話合いの進め方や広げ方が分からない児童が多いと推察される。ある程度話合いの型や話合う回数を増やしていくことで、児童も円滑に話合うことができ、自信につながっていくと考える。

高学年

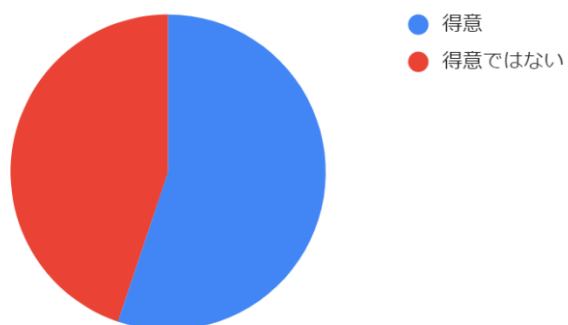
自分の考えを書くことは好きですか。



「好きではない」を選んだ理由

- ① 書くことが思いつかないから
 - ② 字を書くことや漢字が苦手だから
 - ③ 言葉が見つからないから
 - ④ 書き方が分からないから
- など

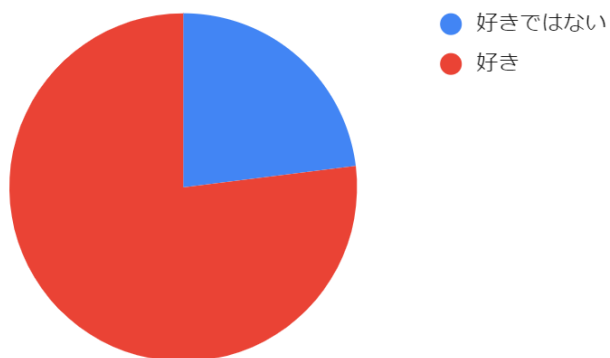
自分の考えを書くことは得意ですか。



「得意ではない」を選んだ理由

- ① 書くことが思いつかないから
 - ② 字を書くことや漢字が苦手だから
 - ③ 言葉が見つからないから
 - ④ 書き方が分からないから
- など

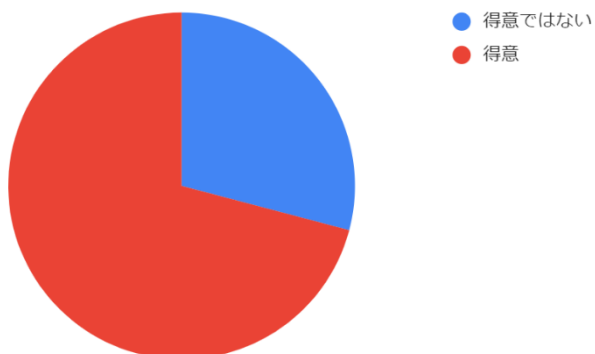
ペアで自分の考えを話すことは好きですか



「好きではない」を選んだ理由

- ① 話し方が分からないから
 - ② 恥ずかしいから
 - ③ 話す内容が思い付かないから
 - ④ 上手に話せないから
- など

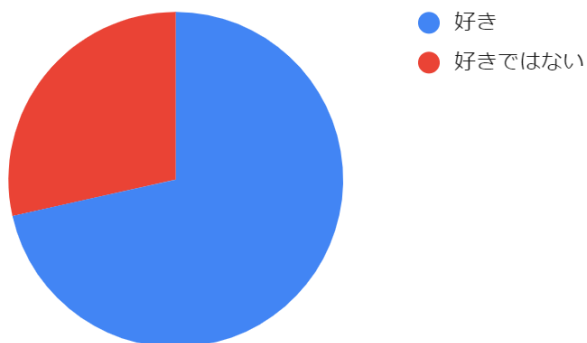
「ペアで自分の考えを話すことは得意ですか」



「得意ではない」を選んだ理由

- ① 上手に話せないから
 - ② 話す内容が思い付かないから
 - ③ 間違えたら恥ずかしいから
 - ④ 緊張するから
- など

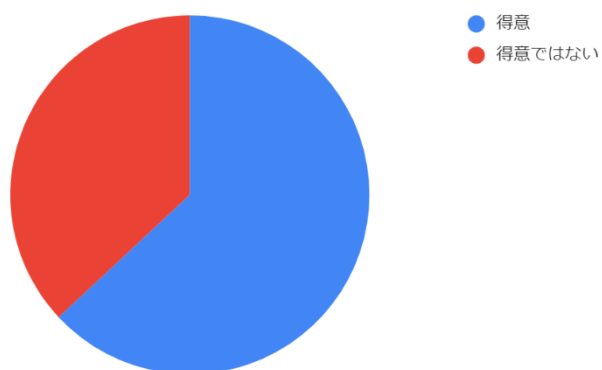
グループで自分の考えを話すことは好きですか



「好きではない」を選んだ理由

- ① 話す内容が思い付かないから
- ② 上手に話せないから
- ③ 間違えたら恥ずかしいから
- ④ 言葉が見付からないから など

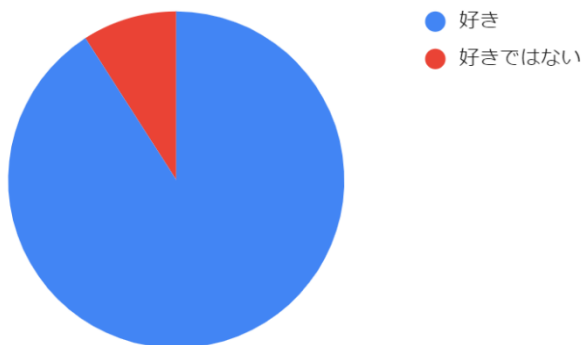
グループで自分の考えを話すことは得意ですか



「得意ではない」を選んだ理由

- ① 緊張するから
- ② 話す内容が思い付かないから
- ③ 間違えたら恥ずかしいから
- ④ 上手に話せないから など

友だちの話を聞くことは好きですか



「好きではない」を選んだ理由

- ① 聞き取れないから
- ② 理解できないから
- ③ 話したくなってしまうから など

「書くこと」「話すこと」「聞くこと」どの項目においても肯定的な意見が多い。

「書くこと」においては、好きではあるが得意ではないと感じている児童が多く見られる。

得意ではない理由として「書くことが思い付かないから」「言葉が見付からないから」などが多く挙げられた。書くことの力を高めるためには、児童一人ひとりの語彙力を向上させることが有効な手だてになることが考えられる。普段から使っていないと書くことの力につながっていないので、今後、語彙力を高める手だてを考える必要がある。

「話すこと」においては、好きでもあり得意でもあるという児童が多く見られる。話すことが好きというところから、語彙力を高めることができるのではないかと考えられる。

グループで話すことになると、得意ではないと考える児童が多いことから、ペアでの話し合い活動を充実させた後に、グループでの話し合いを行えば、人数が増えた話し合いでも抵抗感なく行えるのではないかと考える。

6 研究の成果と課題

【成果】

- ・思考ツールや一人Ｉ台端末を活用したことで、主体的な学びや対話的な学びにおける様々な手だてを講じることができるようになった。
- ・友達と一緒に考えたり話し合ったりすることで、自分の意見に自信をもつことができ、発表する児童が増えた。
- ・書くことや話すこと、聞くことが好きだと考えている児童は、約半数を超えた。

【課題】

- ・思考ツールと一人Ｉ台端末を活用した結果、表現することに対する意欲と自信を育てることはできつつあるが、半数弱の児童がまだ表現することへの苦手意識をもっている。

7 研究授業指導案

第2学年 国語科 学習指導案

令和6年 11月27日(水) 第5校時
第2学年2組 児童数 26名
指導者 大澤 駿祐

1 単元名 「書いて伝えよう！お気に入りのおもちゃ」

教材名 「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(光村図書2年下)

2 目 標

・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。【思・判・表C(1)ウ】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。【B(1)ウ】	①学習の見通しをもち、教材文を読んで考えたことを伝えようとしている。 ②学習を振り返り、身に付けた力を今後の学びに生かそうとしている。
	②「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。【C(1)ア】	
	③「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【C(1)ウ】	

4 学年の目指す児童像

自分の思いや考えを互いに伝え、受け止め合うことのできる児童

5 本時の具体的な手だてと期待する効果

(1) 具体的な手だて

- ①生活科でこれまで作ってきたおもちゃを写真で記録しておく。
- ②おもちゃの記録を見ながら、作り方を自分の言葉で友達に説明する。
- ③友達の書いた文章を読み、良いところを付箋に書き合い自分の文章に生かせるようにする。

(2) 期待する効果

- ①作ったおもちゃの記録を振り返ることで、順序の分かりやすい文章を書けることを期待する。
- ②前時までの記録を見ながら、自分の言葉で説明しておくことで文章化しやすくなることを期待する。
- ③友達と文章を読み合うことで、良い表現を自分の文章に生かすことを期待する。

6 指導計画（全9時間、生活科8時間）

次	時	○学習活動 ・留意点	評価と（評価方法）
第0次	生活科	○生活科の学習で、動くおもちゃを作る。 （パッチングエル、くるくる風車、ストローグライダー）	
第1次	1	○生活科で作ったおもちゃの作り方を家の人に書いて伝えることを目標にして、学習の見通しをもつ。 ・おもちゃを紹介する相手を設定することで、学習への意欲を高める。	学習の見通しをもち、教材文を読んで考えたことを伝えようとしている。 （発言・記述【態－①】）
第2次	2・3	○教材文をよく読み、重要な語や文を見付け、紙コップ花火を作る。 ・順序、数、長さ、位置を表す言葉、写真に関する文に着目できるようにする。	「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 （発言・記述【思－②】）
	4	○作り方を分かりやすく伝えるための工夫について、考えたことを共有する。 ・作り手の手順の説明では、最初に作る物が提示されていることをおさえる。 ・順序、数、長さ、位置を表す言葉や、写真等の資料があると分かりやすくなることを気付けるようにする。	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 （発言・記述【思－③】）
	生活科	○より良い動きができるように動くおもちゃを工夫して作る。 【取材】 ・おもちゃが完成するまでの過程を写真で記録しておく。	
	5	○作り方を説明するおもちゃを決めて、作るのに必要な「材料と道具」を書く。 ○オクリンクプラスに記録したおもちゃの写真を見ながら、作り方を友達に説明する。 ・自分が見付けた工夫を説明に加えるようにする。	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 （発言・記述【知－①】）
	6（本時）	○文章構成と順序を考え、文章を書く。【構成】【交流】 ・作ったおもちゃの記録を参考にして作り方の文章を書けるようにする。	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 （記述【思－①】）
	7	○おもちゃの作り方を説明する文章を書く。 【記述】【推敲】【交流】 ・適宜書いた文章を読み返す時間を作る。	
	8	○おもちゃの遊び方を説明する文章を書く。 【記述】【推敲】【交流】 ・適宜書いた文章を読み返す時間を作る。	
第3次	9	○友達の文章を読み、文章の書き方を工夫していると感じたところを伝え合う。 【交流】 ・感想を伝え合い、自分と友達の文章の良いところを気付くことができるようにする。	学習を振り返り、身に付けた力を今後の学びに生かそうとしている。 （発言・振り返り【態－②】）

7 本 時 (6/9)

(1) 目 標

- おもちゃの作り方を説明する文章の組み立てと順序を考えて、書くことができる。

(2) 展 開

段階	学習活動 C：予想される児童の反応	評価 (■) と支援 (○) 指導上の留意点 (●)
導入	①前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 T:今日は自分のおもちゃの作り方を書いていきましょう。 ②「紙コップ花火の作り方」で学んだ書き方の工夫を振り返る。 T:筆者は作り方を分かりやすく伝えるために、どのような工夫をしていましたか。 C:数字を書いていました。 C:部品の位置を書いていました。 C:順序が分かる言葉を使って書いていました。 自分がえらんだおもちゃの作り方のメモを書こう。	●おもちゃの作り方の自分なりの工夫を想起させる。
展開	③教師の例文を読み、書き方を考える。 T:先生の文章を読んで、良いところはどこでしたか。 C:「まず」、「つぎに」、などの順番を表す言葉を書きます。 C:長さなどの数字を書いていきます。 ④自分が選んだおもちゃの作り方を説明する文章を考えて書く。 T:自分が選んだおもちゃの作り方を書きましょう。 C:「まず」や「次に」とかを使って書きたいな。 T:文章を書き終わった人同士で、できた構成を教え合ってみましょう。そのときに友達の良いところを見付けるようにしましょう。 C:長さの数字を使って書いていました。 C:順番を表す言葉を書いていました。	●例文を読んで学がった良い書き方を、短冊にまとめておく。 ●文の構成は短冊に書き、順序を変えられるようにする。 ●書き方に困っている場合は、友達の書き方を見回よう声掛けをする。 ■「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(ワークシート【思-①】) ○前時に作ったおもちゃの写真を見ながら、説明していたことを文章化しておき、文章を書き出しやすくしておく。 ●早く終わった児童は、お互いの文章を友達と読み合う。 ●友達の良いところは付箋に書き、渡す。
まとめ	⑤学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 T:〇〇さんの文を読んでみて、良いと思ったことはありますか。 C:順番を表す言葉を書いていました。 C:具体的に数字を使って書いていました。 T:次回はこれをもとに、文章を書いていきましょう。	

8 成果・課題

成果

- ・生活科でこれまでのおもちゃを写真で記録したことで、文章を書く手助けができた。
(順序がイメージしにくい児童にとって、特に効果があった。)
- ・付箋を書き合うことで、児童同士の意欲に繋がった。
- ・児童同士でワークシートを見合う時間が十分にとれた。
- ・短冊を使うことで、メモが書きやすくなった。

課題

- ・短く端的にメモを書くという力をつけていく必要がある。
- ・交流をすることで、自分の考えにいかすことができるようにする。

第3学年 国語科 学習指導案

令和6年 12月17日(火) 第5校時

第3学年3組 児童数 29名

指導者 深井 直人

1 単元名 「進行にそって、はんで話し合おう」

教材名 「おすすめの一さつを決めよう」

2 目 標

目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。【思 A(1)オ】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方を理解し使っている。【知(2)イ】	①「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。【思 A(1)ア】 ②「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。【思 A(1)オ】	①粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。

4 中学年の目指す児童像

互いに意見を伝え、受け止め合い、広げた考えを表現できる児童

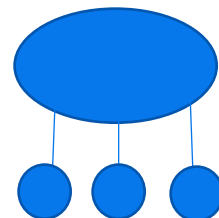
5 本時の具体的な手だてと期待する効果

(1) 具体的手だて

本単元では、①個人活動の場面で、おすすめの本について、本を選んだ理由を書く②グループ活動（意見交流）の場面で、意見を分類、整理する、という2つの場面において、「クラゲチャート(※)」を活用する。

普段より各教科や特別活動（学級会）において、思考ツールを活用して考えをまとめる活動を取り入れ、意見交換しやすい工夫を行ってきた。また、円滑な意見交換を支えるために、教科書の音読を行い、自然な形で話型を活用できるようにした。

※クラゲチャート



(2) 期待する効果

思考ツールを活用することで、自分の意見や立場、理由などを整理しやすくなったり、それらを相手に伝えやすくなったりすると考える。本時では、足の部分を付箋にしたクラゲチャートを用いる。付箋をチャートと組み合わせ、付箋を動かせるようにすることで、意見交流の際に出てきた意見の分類、整理や比較検討がしやすくなることから、児童の考えの広がりや深まりを期待している。

6 指導計画（全7時間）

段階	時	本時の目標（○）指導上の留意点（★）	評価と評価方法
第1次	1	○学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ★教科書 P.36「問いをもとう」に着目し、これまでの話し合いを想起させて、必要感をもって単元の学習に臨めるようにする。	・目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（発言・記述【思－①】） ・学習課題を理解し、これまでの経験を想起するなどして、学習する意義を感じながら取り組もうとしている。（発言・記述【態－①】）
	2	○話し合いの目的と決めることを確かめ、紹介したい本とその理由について自分の意見をもつ。 ★一人ひとりが考えをもてるように、図書館を活用したり考える時間を確保したりする。	
第2次	3	○役割を決め、進め方を確かめる。 ★役割を決めておき、自分の役割を中心に考えられるようにする。 ○デジタル教科書で話し合いの例を見て、話し方を確認する。班ごとに話し合いの計画を立てる。 ★適宜一時停止するなどして、ポイントとなる部分を明確に押さえさせる。	・目的や進め方を確認し、役割を果たすために大事なことを考えている。（発言・記述【思－②】） ・役割を果たしながら話し合って考えをまとめるために、見通しをもって準備を進めようとしている。（観察・記述【態－①】）
	4（本時）	○おすすめの本を班で1冊選ぶための「決め方」について、班で話し合う。 ○振り返りをする。 ★話し合いが進行に沿って進められるように、司会のヒントカードを用意し、いつでも確認できるようにする。	・比較や分類の仕方を理解し使っている。（観察【知－①】） ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。（発言・観察【思－②】） ・粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。（発言・観察【態－①】）
	5	○おすすめの本を班で1冊選ぶ話し合いをする。 ○学習を振り返る。 ★「決め方」を基に話し合いを進め、理由と共に1冊の本を選ぶ。	
第3次	6・7	○話し合いの結果や様子を報告し、学習を振り返る。 ★教科書 P.42の「ふりかえろう」や「たいせつ」を基に、話し合いの仕方ではよかったところなどを伝え合って、次の話し合いへの意欲をもたせる。 ○読み聞かせをする際の工夫を話し合う。 ○読み聞かせの練習をする。	・学習したことを、今後の学習活動や日常生活に生かそうという思いをもっている。（発言・記述【態－①】）

7 本 時 (4 / 7)

(1) 目 標

○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。

(2) 展 開

段階	学習活動 C：予想される児童の反応	評価 (■) と支援 (○) 指導上の留意点 (●)
導 入	1 前時までの学習内容を想起する。 ・前時までに好きな本やおすすめしたい本について自分の意見をもったことを確認する。 2 本時の学習のめあてを確認する。 めあて 進行にそって、本の決め方を話し合おう。	
展 開	3 教科書を読み、話し合いの進行の仕方を振り返る。 4 自分のおすすめの一冊を、班に紹介する。 ・クラゲチャートのふせんに書いた「推しポイント」を基に発表する。 5 「推しポイント」を班で整理、分類していく。 ・分類の仕方は、班ごとに話し合いながら決めていく。 C：この3つは「ストーリー」でまとめられるね。 C：絵がかわいいと、文が読みやすいは違うまとめだね。 6 決め方を話し合う。 C：「ストーリー」で決めるといいと思います。話が面白いと、一年生が夢中になって楽しめると思うからです。 7 決まった決め方とその理由を発表する。	●話し合いの最中も確認できるように、話し合いの進行の仕方を黒板に掲示する。 ○自分で書いたクラゲチャートを見ながら発表することにより、自信をもって発言できるようにする。 ■比較や分類の仕方を理解し使っている。(観察【知-①】) ■目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。(発言・観察【思-②】) ○相手の意見を受け止めて考えることができるように、声を掛ける。 ○安直な多数決にならないよう、声を掛ける。 ■粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。(発言・観察【態-①】)
ま と め	8 学習を振り返る。	●ワークシートを用意し、振り返りの視点を明確にする。

【授業観察の視点】

- ・思考ツールは、自分の意見や立場、理由などを整理したり、それらを相手に伝えやすくなったりする手だてとなっていたか。
- ・付箋を用いることで、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめやすくなっていたか。

8 成果と課題

○10分程度の短い話し合い活動を定期的に取り入れたことで、協力してスムーズに話し合うことができた。

○司会進行の仕方を書いたヒントカードが、司会者の進行の手助けになった。

○付箋に意見を書き、それを集約することで意見の分類・整理がしやすくなる。

○本の中身を見せながら推しのポイントを示していたので、根拠が強まっていた。

○児童の意見を基に、本の選定条件を分類・整理していく。

●教師により読み聞かせ相手が決まっていたため、子どもたちの本を選ぶ自由度が狭まってしまっていた。

●付箋に書いた文章を読むことや分類わけに集中してしまい、本の精選について詳しく検討する時間を確保することが難しかった。

●グループでの話し合いが、児童の思考の整理につながりにくい。

●誰の意見か分かるよう付箋の色を変えると良い。

第5学年 国語科 学習指導案

令和6年11月15日（金）第5校時

第5学年3組 児童数31名

指導者 澤村 優花

1 小单元名 「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」

2 目 標

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など、情報と情報との関係について理解している。 ②日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。	①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ②「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ③「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	①粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

4 高学年の目指す児童像

根拠を基にした意見を伝え受けとめ合い、より明確にした考えを表現できる児童
書くことにおいて何度も推敲し、自分の考えを表現できる児童（5年生）

5 本時の具体的な手だてと期待する効果

（1）具体的な手だて

- ①教師主導で生成AIを活用し、自分の書く文章のテーマに必要な資料を収集させる。
- ②意見文のテーマは教科書に提示されているテーマではなく、児童にアンケートをとり「環境を守る」「命を守る」という2つのテーマから、1つを選択できる形をとる。

（2）期待する効果

- ①生成AIを通してどのような資料が必要かを知り、より説得力のある文章を書くことができる。
- ②文章を書く際にテーマが広すぎると何を書いていいかわからず作業がとまってしまう姿が見受けられる。
そのため、本单元では身近なテーマを選択することで児童が考えを書きやすくなることを期待する。

6 指導計画（全 11 時間）

次	時	○学習活動	・指導上の留意点	評価規準と評価方法
第1次	1	○教材文を読んで感想をもち、学習の見通しを立てる。 ○「〇〇を守る」という文章を書く。（1回目）	・学習の流れを配布し、今後いつでも確認できるようにする。 ・文章を書くことへの抵抗感を減らすため、原稿用紙ではなく、罫線の用紙を使用する。	学習の見通しをもって、意見文を書こうとしている。 （記述【態-①】）
	2	○文章構成を押さえて筆者の論の進め方を確認し、文章の大体を捉える。	・全文シートを活用し、文章の構成を一目で分かるようにする。	原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・記述【知-①】）
第2次	3	○「中」の部分の論の展開の工夫を読み取る。	・全文シートの資料を最初は抜いておき、資料があることで読みやすくなることを実感できるようにする。	「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 （発言・記述【思-③】）
	4	○「はじめ」「終わり」に書かれてる筆者の主張や工夫を読み取る。	・読み取った内容を自分の文章に活用できるよう「読みの技」としていつでも確認できるようにする。	「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 （発言・記述【思-③】）
	5	○文章と資料のつながりや筆者の論の進め方を捉え、要旨をまとめる。	・要旨をまとめる際は、Google ドキュメントを使用し、簡単に字数を確認したり書き直したりできるようにする。	「読むこと」において事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 （記述【思-②】）

	6	○筆者が資料を使った意図や効果を考える。資料の効果に触れながら、筆者の考えや説明の工夫について、自分の考えをまとめる。	・考えをオクリンクプラスで共有し、他の人の考えも簡単に確認できるようにする。 ・自分が文章を書く際に、よりの確な資料・データを利用するために、生成 AI を活用する。	原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (発言・記述【知-①】)
第3次	7	○モデル文を基に、「初め」「中」「終わり」で書くことを確認し、構成メモを作成する。	・オクリンクプラスを活用し、付箋にメモを作成する。	「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (オクリンクプラス【思-①】)
	8【本時】	○資料をもとに「初め」「中」「終わり」で書くことを確認し、構成を考え、文章を書く。(2回目)	・オクリンクプラスを活用し、付箋にメモを作成する。	「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (オクリンクプラス【思-①】)
	9	○構成メモを基に、自分の文章を書く。(2回目)	・オクリンクプラスを活用し、作成した付箋を見ながら文章を書くことで、文章をスムーズに書けるようにする。	読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。 (記述【態-①】)
第4次	10	○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。	・交流を活性化するために、「資料を効果的に活用しているか」「初め・中・終わりの文意は通っているか」という視点を提示する。	日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気づいている。 (発言・記述【知-②】)
	11	○他の人の文章を読んだり、自分の文章を読み直して気付いたことを直し、最後の文章を書く。(3回目)	・今まで書いた文章は画用紙に貼り、保管しておくことで、これまでの文章と比べ、自分の文章の変化が実感できるようにする。	読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。 (記述【態-①】)

7 本 時 (8 / 11)

(1) 目 標

○自分の考えに合った資料を選び、「初め」「中」「終わり」の構成を考える。

(2) 展 開

段階	学習活動 C：予想される児童の反応	評価 (■) と支援 (○) 指導上の留意点 (●)
導 入	①前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 本時のめあて 構成メモを完成させ、2回目の文章を書こう。	●振り返りシートを活用し、これまでの学習を振り返る。
展 開	②前時から始めている、構成メモの書き方を再度確認し、個人で作成する。 ③構成メモを同じグループの友達に見せ、付け足しや感想を付箋に書いてもらう。 視点 ・意見と選択した資料が合っているか。 ・「初め」「中」「終わり」の構成ができているか。 C：この資料は自分の考えと合っていて、いいと思う。 C：初めと終わりのつながりがよくないから、終わりをもう一回見直すといい。 C：中の例が少し短いから、もっと具体的に書けるといいと思う。	●オクリンクプラスを使い、メモを作成する。 ●共有する際に、視点を提示し確認し合う内容を絞る。 ●②③は何回でも繰り返していいことを伝える。 ○資料を選んだ理由が書けない児童には、話合いで得た意見を後で記入するように伝える。 ■「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (オクリンクプラス【思-①】)
	④友達が付け足した付箋を参考に、構成メモを完成させ、文章を書き始める。	●共有後の付箋の色を変えることで、児童が共有したことをどのくらい活用したのか分かるようにする。 ●構成メモが完成した児童から、文章を書き始めても良いことを確認する。
ま と め	⑤本時を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・自分一人だと不安だったが、友達の付箋を見て資料が合っていると実感できた。 ・一回目に文章を書いたときには、内容が分からなかったが、教科書の文章を読んだことで内容が深まり、文章が書きやすくなった。	○振り返りが書けない児童は、一緒に振り返りの視点を確認する。

8 成果と課題

【成果】

- ・オクリンクプラスを用いることで、児童の思考の手助けとなった。
- ・総合的な学習の授業の展開と関連させることで、児童にとって考えやすい題材になった。
- ・グループ活動を取り入れることで、手が止まる児童が少なく、意欲的に取り組むことができた。

【課題】

- ・資料からの読み取りはできていたが、そのことが自分の課題の根拠になったか微妙なところである。そのため、より根拠付けた文章にするためにはどうしたらよいか考える必要がある。
- ・今回は自分の課題について資料を見付け、根拠付けて文章を書くという目標であったが、どうしても交流時に誤字・脱字等に目がいってしまう児童もいた。全ての児童がより良い文章にするためにどうしたらよいか考えることが非常に難しいため、その部分の手だてを今後検討する必要がある。
- ・児童の発達段階に応じた個別最適な学びにするためにも、より自由度の高い学習形態を今後検討していく必要がある。